2026年9月

乳がん高度検診・治療センター NEW－す

No.133

抗体薬物複合体トロデルビ®の適応拡大

～ホルモン受容体陽性HER2陰性の進行・再発乳がんも対象に～

トロデルビ®（サシツズマブ ゴビテカン）は2024年11月に市販され、進行・再発トリプルネガティブ乳がんに対する治療薬として広く使用されています（センタニュースNo126参照）。本年（2026年）3月この薬剤がホルモン受容体陽性HER2陰性の進行・再発乳がんに対しても適応が拡大*されましたので、本号で紹介します。

*適応拡大とは、すでに承認されている薬剤が、他の疾患や、同じ疾患であっても別の段階やタイプなど、に対象が広がることを意味します。

トロデルビ®のおさらい

トロデルビ®は乳がんのもつTROP-2（トロップツー）という物質を標的としたTROP-2抗体に化学療法薬（抗がん剤）SN-38を結合させた「抗体薬物複合体」というカテゴリーに属する薬剤です。近年、この種の薬剤の進歩はめざましいものがあります。

今までは、化学療法歴のあるホルモン受容体陰性かつHER2陰性（＝トリプルネガティブ）の手術不能又は再発乳がんのみがその適応でした。

センターニュースNO.126はこちらからみれます

ホルモン受容体陽性HER2陰性の進行・再発乳がんに対するトロデルビ®の効果

内分泌療法（ホルモン療法）やCDK4/6阻害薬(イブランス®やベージニオ®)、化学療法などの治療後に進行したホルモン受容体陽性HER2陰性の進行・再発乳がんの患者さんを対象とした海外での臨床試験の結果、トロデルビ®投与群で、既存の化学療法での治療群と比較して生存期間の延長が認められました。再発巣が小さくなるなど単に効くというだけでなく、生存期間の延長が認められたことは注目すべき点です。

この結果を受けて、今回「化学療法歴のあるホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳がん」への適応拡大となったわけですが、結局、HER2陰性であればホルモン受容体の状況に関係なく、進行・再発乳がんにこの薬剤が使用できるようになりました。

トロデルビ®の投与方法と副作用対策

本薬剤の投与方法はトリプルネガティブ乳がんの場合と全く同じで、21日を1サイクルとして、各サイクルの1日目および8日目に点滴静注で使用されます。すでにトリプルネガティブ乳がんで繁用されてきた薬剤ですので、当院ではじゅうぶんな使用経験があります。

副作用として注意すべきものとして好中球減少症などの骨髄抑制があります。当院では最も影響の出る時期に、ジーラスタ®という好中球を増やす薬を予防的に使用しています。次いで、下痢がありますが、適宜予防的に内服薬を処方することで対応が可能です。

ホルモン受容体陽性HER2陰性の進行・再発乳がんに対する治療

ホルモン受容体陽性HER2陰性乳がんは乳がんの中で最も多いタイプで、全体の約75%を占めます。このタイプのがんに対する薬物療法は基本的に内分泌療法が中心となり、すでに多種類のものがあり、さらに新規薬剤も次々と登場しています。ただし、内分泌療法が効かなくなった時点では化学療法（抗体薬物複合体を含む）が必要となります。ダトロウェイ®（乳がんセンタニュースNo130,131 参照）は同じTROP-2を標的とした抗体薬物複合体で、ホルモン受容体陽性HER2陰性の進行・再発乳がんに使用されていますが、また強力な選択肢がひとつ加わったことになります。

センターニュースNO.130はこちらからみれます

センターニュースNO.131はこちらからみれます

ご質問等がありましたら、医師またはスタッフまでお気軽にお問合せください。

市立貝塚病院
Kaizuka City Hospital

乳腺外科　稲治英生